

新規就農実践記

花組ファーム
公田博三

楽しい毎日、でも楽はさせてもらえない

今年（2006年）4月、茨城県笠間市（合併前の友部町内）において新規就農を果たし、単身移り住んで鉢花栽培を始めました。本原稿を書いた9月の時点で半年を経過したばかりで、まだ市場へ出荷するまでに到ったものはありませんが、来春からの出荷を目指していくつかの品目の栽培を行っています。

農場はほぼ70m四方の矩形で、約5,000㎡の面積がありますが、栽培施設としては約300㎡のパイプハウス1棟でスタートしました。年内には同じ大きさのものをさらに1棟増設し、2棟にする予定です。

農場に花組ファームと名前を付けていることからご想像いただけるように、園芸別科で花卉を専攻しました。2005年3月に別科修了後、さらに同年4月から今年3月までの1年間、柏のフィールド科学センターにおいて研究生として鉢花栽培の経験を積みました。

健康上の理由もありサラリーマン生活を少し早目にリタイアし、別科に入学したのが56歳。60歳までには就農を果たし、生産者として10年間頑張ることを目標に3年間、そのために必要な知識・経験の習得と70歳まで元気で働ける身体づくりを行ってきました。

花卉産業に関してまったく予備知識を持っていなかった別科入学時点では、切花栽培を行うのをイメージしていましたが、別科の2年の間に、鉢花栽培、それ

もあまりポピュラーでない品目を多品種少量栽培したいという思いに変化しました。またこの間に、規則正しい学生生活と食餌療法により、60kgを超えていた体重も50kgにまで落とすことができ、おかげで健康体を取り戻し、体力にも自信を持つことができました。

目標としていた60歳より1年ほど早く就農でき、多くの植物に囲まれて毎日楽しくやっていますが、広すぎる農地がゆえに、除草など栽培施設以外の部分の維持・管理にも労力を割かなければならないため、なかなか楽はさせてもらえません。

一見熟慮断行、実情は猪突猛進

新規就農を目指して別科2年の後半からそのための活動を始めました。当初は自宅のある千葉県流山市周辺での農地の借用を前提に就農地探しをしましたが、露地栽培での借地は可能としても、施設栽培での借地は不可能に近いこと、ましてや農地の取得は資金的にも困難であることを思い知らされました。

この間、新規就農支援に関する情報収集をする一方で、新農業人フェアなどに参加して直接話を聞いたりしました。その結果、就農地としては茨城県にターゲットを絞りました。結果的には通作はできませんでしたが、場所によっては自宅から通作の可能性もあること、そして鉢花の集出荷に関する流通センターが組織されていることが同県を選んだ理由です。

茨城県の県南・県央地域で、サラリーマンを辞めて新規就農された方二人と別科を修了された鉢花生産者二人を見つけて連絡をとり、施設の見学と新規就農へのアドバイスをお願いしました。新規就農された方からは農地の借用または取得は有力な伝がない限り非常に困難であることを教えられました。

残念ながら茨城県にはなんら伝がないため、苦肉の策として農地の借地・売地情報を不動産業者のWEBなどから探して回りました。いくつか情報が見つかり、その都度現地を見に行き、昨年10月に最終的に決めた



農場入口からみたパイプハウス全景

のが売地として出ていた当時は友部町であった現在地です。幹線道路から近く、農場への取り付け道路の幅も十分あり、土地がほぼ矩形で使い勝手がよく、灌水の井戸も農地内に既存のものがあったことなどが決め手になりました。

農地の新規取得が困難なのは新規就農されたお二人から聞いており、物件は見つかったものの農地法に基づく農業委員会の許可が下りるかどうかが心配でした。幸い、別科を修了したことで研究生としての計3年間の経験、申請書に添付して提出した無理のない(と思われる)就農計画書が功を奏し、昨年12月末に農地法第3条に基づく農地の譲渡の許可が下りました。農業委員の中に別科修了生の方がいらっしゃったのも味方したようです。10月中旬に売地情報を得てから取得までに2カ月半ほどかかりましたが、それでも新規取得としてはスムーズに行ったケースのようです。

許可が下りるまでは先に進められなかったことと、許可が下りたのが年の瀬も押し詰まった時期で、正月明けまでは動きようがなかったことから、何とか4月にはスタートしたかったためにそれからの準備は大変でした。整地、ハウスの仕様の決定・発注と建設、水回りと電気工事、仮設トイレや事務所として使用するユニットハウスの手配、単身移住のための住まい探し、土や鉢などの生産資材の手配などを2カ月で済ませました。

幸いなことに旧友部町内には、前述の別科の先輩の鉢花生産者の一人の佐藤花園の佐藤さんがおられ、12月のポインセチアや4月のアジサイの出荷時期と重なって忙しい時期にもかかわらず、様々な相談にのっていただいたことが大きな助けとなりました。

3月下旬にパイプハウスが完成し、フィールド科学センターでの研究生の時に育成した親株類を運び込み、4月からのスタートにこぎつけることができました。

別科入学を決めた時から新規就農までの過程を第三者的にみると、一見熟慮断行の印象を受けますが、実情は猪突猛進。サラリーマン時代の経験から計画作りと数字には強いのでそれなりの準備はしましたが、これと決めたらそんなものは吹っ飛んでしまい、新規就農ありきで、わき目もふらずがむしやりに突き進んだというのが本当のところ。これまでの59年間の自分の人生を振り返ってみても、サラリーマン時代の1回の転職、早期退職、いずれの時もいつも同じパターンでした。やっぱり、来年還暦を迎えるイノシシだからしょうがないかと妻もあきらめています。



栽培品目のひとつのアニソドンテア (*Anisodonteas capensis*)

現在は、農場から約5km離れた笠間市内にアパートを借りて住み、孫の顔を見たさに月に3回程度日帰りで、自宅のある流山市までの片道2時間、75kmの距離を往復しています。

何を作るか、走りながら考える

フィールド科学センターで研究生として在籍した1年間に、挿し木を主体に栄養系の繁殖での鉢花栽培について約50品目をトライしました。その中で、4号(寸)程度の小鉢仕立てが可能で、常緑、耐寒性~半耐寒性、挿し木における発根率が70%以上のものから栽培を始めることにしました。ある程度の作型や仕立て方について理解できたものもあれば、1年ではまだまったく掴めていないものもあります。

すでに挿し木苗を2.5~3号ポットへ鉢上げしたものとして、アニソドンテア (*Anisodonteas capensis*)、ニオイバンマツリ (*Brunfelsia australis*)、グレビレア (*Grevillea spp.*)、ギョリュウバイ (*Leptospermum scoparium*)、ギンバイカ (*Myrtus communis*)、ミントブツシュ (*Prostanthera ovalifolia*)、ツリージャーマンダー (*Teucrium fruticans*)、オーストラリアンローズマリー (*Westringia fruticosa*) などがあり、いずれも来年年500鉢程度の市場出荷を目指しています。

いずれも末端価格で500円前後のもので、研究生時代に柏の市場に出荷したことのあるアニソドンテアやツリージャーマンダーのセリ値から考えて、出荷価格は200円前後の商品とみています。就農計画書においても、この程度の価格を想定して収支を計算していませんので、どうみても採算のとれる事業構造にはなっていません。でもスタート時点はそれでもよしと考えました。

写真でもわかるように、1棟目のハウスの中には現在植物園状態ですが、10月には建つ予定の2棟目は出荷予定品目のみにするつもりです。前述した8品目は耐寒性があり、その程度も比較的似通ったものばかりです。ハウスを連棟ではなく単棟にしたのも、一度に多

額の設備投資ができないこともあります。多品種少量生産を行う関係上、燃料費の高騰と商品価格から、いかに冬場の暖房コストを下げるかが課題と考えたことによるものです。

植物園状態の品目の中には来年以降栽培予定のものもあれば、栽培を断念するものもありますが、今後もさらに新たな品目の導入を検討したいと考えており、既存のこの1棟の植物園状態は将来的にも解消しないだろうと思います。

その中で、いかに採算性のよい品目にシフトさせるか、栽培品目をいかにうまく組み合わせる設備を効率よく回転させるか、そのために何をやるかはこれからも走りながら考えることにしています。

鬼もあきれる5年後の夢

初期投資1,700万円と3年目までに不足する運転資金は自己資金で賄うこととし、総額で約2,000万円を予定していました。ハウス2棟目でほぼ初期投資分は使い切りました。農地を購入により手当てした分、栽培施設への設備投資が減りましたが、実際にこの半年間やってきて、現在考えている生産方法だと一人で管理できるのは300㎡のハウス2棟、年間1~1.5万鉢の生産が限度であることもわかってきました。

作成した事業計画においては、3年目にこの規模を達成し、減価償却費を含めて収支トントンのところまで持って行くことにしています。この段階ではまだ労務費はゼロですので、私自身の生活費は持ち出しになりますし、当然、外部の労働力の導入は考えられません。

減価償却費は設備の耐用年数から考えて当面は新規の設備の増設のための投資に向けることが可能ですので、5年後には同規模のハウス4棟とし、同時に労務費が出るような事業構造を目指し、私以外の労働力の導入を図ることを思い描いています。しかし、その時点で



さながら植物園状態のハウス内風景

も私の労務費(生活費)は依然として持ち出しの状態です。年金生活が可能な私としては、それは想定内です。

私以外の労働力の導入についていえば、雇用という形態よりも、花卉生産者として新規就農を目指す方が、イコールパートナーとして一緒に働いてくれ、いずれは後継者となってくれることを望んでいます。冒頭で述べたように、私自身は10年間、70歳までは現役としてありたいと思っていますが、その後は後継者に譲ることを予定しています。後継者づくりを始めるための5年後であり、そこまでにそれができる経営状態に行きたいという夢を描いています。来年のことをいうと鬼が笑うといいますが、5年先の夢には鬼もあきれることでしょう。

仕事は楽しくをモットーに

人生を楽しく、もちろん仕事も楽しくをモットーにこれまでやってきました。楽しくするためには楽なことばかりではないし、場面場面で周りの人々の支えがあったからこそできたと思っています。その意味でこれまで支えていただいた方々には感謝しています。

新規就農の過程でも、3年間の別科生・研究生期間中にご指導いただいた先生・技官の方々、花づくりの楽しさを一緒に学んだ別科花卉専攻のクラスメートや同窓生、アドバイスをいただいた鉢花生産者先輩諸氏、農地の取得や農場の立ち上げでお手伝いいただいた地域の方々など、数多くの人にお世話になりました。

でも一番感謝すべき相手は最愛なる妻かもしれません。自分の夢に向かって猪突猛進する私を、文句はいいながらも、しょうがないとあきらめて許してくれたのですから。

それらの方々の恩に報いるためにも10年間は頑張らなければと思っています。仕事は楽しみながら。

残念ながらまだ「花組ファーム」のWEBサイトは立ち上がっていません。この原稿が掲載された「花葉」誌が発行される頃までには立ち上げたいと目下勉強中です。

関心のある方のご来訪、ご連絡を歓迎いたします。所在地住所および連絡先は以下の通りです。電話は常時留守電になっていますのでご承知おき下さい。

問い合わせ：〒309-1724 茨城県笠間市大古山463-29
FAX / TEL: 0296-78-9400
e-mail: hanagumi-farm@jupiter.ocn.ne.jp